

「カルミナ・ブラーナ」について (2)

丑 田 弘 忍

163a.

Eine wunnechliche stat
 het er mir bescheiden :
 da die blumen unde gras
 stunden grüne baide,
 dar chom ih, als er mih pat.
 da geschach mir leide.
 lodircundeie! lodircundeie!

あのお方は私にすばらしい場所を
 教えて下さいました。
 そこには花々と草が
 緑に映えています。
 あのお方がお命じになるままに、そこへ私は行きます。
 私にせつない思が起りました。
 ロディルクンディエ! ロディルクンディエ!

野における恋人同志の sinnlich な愛を表示する Tanzlied である。表現法やモチーフにおいて Walther von der Vogelweide の有名な詩 Under der linden と一致している。

Under der linden an der heide,
 da unser zweier bette was,
 Da mugt ir vinden schone beide
 gebrochen bluomen unde gras.
 Vor dem walde in einem tal,
 tandaradei,

schone sanc die nahtegal.

野の菩提樹の下に、
わたしたち二人の臥所があった、
そこで花も草も折れてしまっているのを
あなたがたは見るでしょう。
谷の森の前で、
タンダラダイ、
小夜啼鳥が美しく啼いていた。

Walther が Carmina Burana の影響の下に制作したと推定される。

164a.

Ih wolde gerne singen,
der werlde vröde bringen,
mochte mir an ir gelingen,
der ih diene alle mine tage.
der minne wil mich twingen.
in mime herçen ich si trage ;
noch lebe ih des gedingen.

私は喜んで歌いたい、
世の人に喜びをもたらしたい、
生涯私が仕える
あの人の愛を得ることが出来るならば。
あの人のミンネは私を苦しめる。
私は心の中に彼女をいただいている。
希望によって私は生きている。

165a.

Mir ist ein wip sere in min gemüte chomen,
uon der han ich gançer tugende vil vernomen ;
des minnet si daz herçe min.
ir schoner lip hat mir vrovde vil gegeben.
solde ih nah dem willen min div zit geleben,

daz ich ir gelege bi,

.....

.....

ある一人の婦人が私の心の中に完全に入って来てしまった。
 私はその人については欠くことのない美德を聞いた。
 そのため私の心はその人を想っている。
 うるわしい身は私にたいそう喜びを与えてくれた。
 もし私が思い通りにその人の横に臥すような時を
 味わう事になればなあ！

いかにも Carmina Burana らしいきわめて sinnlich な歌である。

166a.

Solde auer ich mit sorgen iemmer leben,
 swenne ander lute weren fro ?
 gvten trost wil ih mir selbeme geben
 vnde min gemüte tragen ho,
 so von rehte ein selich man.
 si sagent mir alle, truren sta mir iemerlichen an.

私はいつまでも懊悩の日を送らねばならぬのか、
 ほかの人々が喜び勇んでいても？
 私は己を励まし、
 心意気を高めたい、
 幸せな男がそうであるように。
 すべての者は言っている、私が悲しみにうちひしがれていると。

A写本には Gedrut, C写本には Reinmar の作品として入れられてある。相入れられない恋を悩む騎士の歌う歌。

167a.

Swaz hie gat umbe,
 daz sint alle megede ;
 die wellent an man
 allen disen sumer gan !

ここで輪を描いて回るもの、
それはこの夏中殿方なしで
踊ろうとしている
乙女たちです。

168a.

Nu gr̥vnet auer div heide,
mit gr̥vneme löbe stat der walt ;
der winder chalt
dwanch si sere beide.
div zit hat sich uerwandelot.
ein senediv not
mant mich an der gūten,
von der ih ungerne scheide.

野は再び緑、
森は緑の枝葉で一杯だ。
冷たい冬が
野と森をひどく苦しめていた。
季節は変わった。
恋のうづきが
大事な人の事を私に思い出させる。
その人から別れるのはいやな事。

C写本には Neidhart von Reuenthal (1180—1250) の作品として入れられてある。解放的な春の気分を歌っている。

169a.

Róter munt, wie dú dich swáchest !	4 wv a
lá din láchen sín !	3 v b
schéme dich, swénne dú so láchest	4 wv a
nách deme scháden dín !	3 v b
dést niht wólgetán.	3 v c
ówi só verlórner stúnde,	4 wv d

sól von mínnechlíchen múnðe
sólích únminne ergán !

4 wv d
3 v c

赤い口唇よ、お前はなんと自分をいやしめていることか。
笑うのをやめなさい。
お前がそんなに笑って損をすることになるなら、
恥じるがよい。
それはよくない。
愛らしい口から
そんな悪意が生れてくるなんて、
何て無駄な時か！

C写本には Walther von der Vogelweide の作として入れられてある。韻律は示したように、同じく同詩人の作としてC写本に入れられてある 151a. と全く同一である。

170a.

Min vrowe Uenus ist so gút,
si chan vrovde machen
den, swer iren willen tut ;
der herce müz lachen.
si hat vrowen in ir hüt,
die lat si nit swachen.
swer gegen den hat hohen müt,
der mach gerne wachen.

わがヴェーヌス婦人は立派だ。
願いを満たしてくれる人に、
喜びを与えることが出来る。
彼女の心は笑っているにちがいない。
彼女は女たちを守っている。
彼女は女たちをいやしめはしない。
彼女たちに対して誇り気を持つ者は
心喜ぶことが出来る。

171a.

Vrowe, wesent vro!
 trostent ivch der sumerzit!
 div chumit iv also:
 rosen, lilien si uns git.
 vrowe, wesent vro!
 wie tūt ir nu so,
 daz ir so trurech sit?
 der chle, der springet ho!

貴婦人たちよ、朗らかでありなさい。
 夏を喜びなさい。
 夏はこうしてあなたたちのところへやってきます。
 夏は我々にバラやユリをもたらします。
 貴婦人たちよ、朗らかでありなさい。
 あなたがたがそんなに悲しんでいるとは、
 どうしたことなのでしょう。
 クローバは高くとび上がるんです。

172a.

Ich han eine senede not, div tūt mir also we;
 daz machet mir ein winder chalt vnde ovch der wize sne.
 chome mir div sumerzit,
 so wolde ich prisē minen lip
 umbe ein vil harte schoniz wip.

わたしは恋のうづきをいただいている。恋のうづきはわたしに苦しみ
 をもたらす。

きびしい冬と白い雪が私にそうさせる。
 夏がやってくれば、
 たいそう美しい女のために。
 わたしはわが身を飾りたい。

閉ざされた冬から解放されて、夏における恋を楽しみ、一人の女性によ
 って高揚された自己を見いだすモチーフは 139a. と全く一致している。

173a.

Wol ir libe, div so schone
 lebet, alsam div vrowe min!
 si treit wol der eren chrone.
 in ir dienest wil ich sin;
 dest ein ende.
 swer daz wende,
 der enguuinne
 hoher minne
 nimmer me!

こんなにみやびやかに暮らしておられる
 私の貴婦人に幸いあれ。
 あの人には名誉の冠をいただいています。
 私のあの人に仕えたい。
 それはまぎれもないことです。
 それを避ける者は
 高きミンネに
 決して
 あずかり得てはならない。

174a.

1. Chume, chume, geselle min,
 ih enbite harte din!
 ih enbite harte din,
 chum, chum, geselle min!
 2. Suzer^o roserverwer munt,
 chum vnde mache mich gesunt!
 chum vnde mache mich gesunt,
 suzer^o roserverwer munt!
1. おいで、おいで、わが友よ、
 たいそうあなたを待っている。
 たいそうあなたを待っている。

おいで、おいで、わが友よ。

2. 甘きばら色の口唇よ、
 やって来て、私を元気にしておくれ。
 やって来て、私を元気にしておくれ。
 甘きばら色の口唇よ。

恋を求める歌。

175a.

Taugen minne div ist ^ogūt,
 si chan geben hohen ^omut;
 der sol man sih ulizen!

swer mit triwen der nit phliget, deme sol man daz wizen!

密かな愛、それはよいもの。
 それは高まった心を与える。
 それにいそしむがよい。
 それを誠をもってはぐくまぬ者に
 その事でとがめるがよい。

Tagelied のテーマとなる夜の密会のうまみを歌っている。

177.

1. Stetit puella
 rufa tunica;
 si quis eam tetigit,
 tunica crepuit.
 eia!
2. Stetit puella
 tamquam rosula:
 facie splenduit
 et os eius floruit.
 eia!
3. stetit puella *bi einem boume,*
 scripsit amorem *an eime lovbe.*

dar chom Uenus also fram ;
caritatem magnam,
hohe minne
bot si ir manne.

1. 赤いシュミーズを着た
 少女が立っていた。
 誰かがそれにさわると
 かさかさ音をたてた。
 ああ,
2. ばらの花のような
 少女が立っていた。
 顔は輝き,
 口唇は花咲いていた。
 ああ,
3. 木の側に少女が立っていた。
 彼女は枝葉に愛を描いた。
 そこへすばやくヴェーヌスがやって来た。
 大きな愛を,
 高きミンネを,
 彼女は恋人にささげた。

ラテン語とドイツ語の混合詩である。 *scripsit amorem an eime lovbe* は、乙女が恋人の名前を枝葉に書きつけたことを意味すると思われる。又 *eia!* はこの歌が *Tanzlied* であることを示している。Hansjörg Koch (PBB 61. 1937 S. 151—179) はこの詩を民俗学的な面から研究し、木は *Sitz der Baumseele* であり、Venus はデーモンであり、詩全体においては *Liebeszauber* の目的のための *Dämonbeschwörung* が問題になっているとしている。

178a,

Ich wil den sumer gruzen, so ih besten chan ;
 der winder hat mir hivre leides vil getan.
 des wil ich rufen in der vrowen ban :

„ich sih die heide in grüner varwe stan!
 dar suln wir alle gahen,
 die sumerzit enphahen!
 des tanzes ich beginnen sol, wil ez iv niht versmahen!“

出来るだけ、夏を喜び迎えたい。
 今年の冬は私に苦しみの多くをもたらした。
 そのため婦人の通る道で叫びたい。
 「緑に色づく野が見える。
 そこへみんな急ごう。
 夏を迎えよう。
 あなたがたに異存がなければ、踊りを始めよう」

179a.

Einen brief ich sande
 einer vrowen güt,
 div mich inme lande
 beliben tüt.
 stille ih ir enbot. ob si in gelas,
 dar an was
 al mins herzen müt;
 div reine ist wol behüt.

Refl. Selich wip,
 vil süziz wip,
 du gist wol hohen müt;
 schone ist div zit,
 bi dir swer lit,
 sanfte dem daz tüt.

この地に私を
 いるようにさせている
 ある気高き婦人に
 私は手紙を送った。
 ひそかに私は彼女に使いをやった。

彼女がそれを読んだ時、
 私の心の思がそれに託されているのが彼女にわかった。
 その清い人は見守られている。
 至福な女人よ、
 いと甘美な女人よ、
 おん身は気高い心をもたらす。
 おん身の傍にいる者は、
 やすらぎが与えられる。
 こんな時はすばらしい。

手紙のモチーフは普通ミンネザングでは用いられず、Liechtenstein の
 Frauendienst の影響とみなされる (O. Schumann. a. a. O. S. 429)

180a.

1. Ich wil truren varen lan ;
 vf die heide sul wir gan,
 vil liebe gespilen min !
 da seh wir der blumen schin.

Refl. Ich sage dir, ih sage dir,
 min geselle, chum mit mir !

2. Suziv Minne, raine Min,
 mache mir ein chrenzelin !
 daz sol tragen ein stolzer man ;
 der wol wiben dienen chan !

Refl. Ich sage dir...

1. 私は悲しみを取り去りたい。
 野へ出かけよう。
 わが愛する友よ、
 そこで花々の輝きを見よう。
 お前に言おう、お前に言おう、
 わが友よ、私と一緒にいこう。
2. 甘き恋人よ、清き恋人よ、
 私に花環を作っておくれ。

婦人に仕えることがよく出来る
 誇り高い男がそれをつけるのがいい。
 お前に言おう、お前に言おう、
 わが友よ、私と一緒にいこう。

181a.

1. Der winder zeigt sine chraft
 den blumen vnde der weide ;
 zergannen ist ir grv̇civ chraft,
 daz chlaget uns div heide.
Refl. Vve tut in rife vnde ovch der sne,
 da uon stat val der grüne chle.
2. Die uogele swigent gegen der zit ;
 si lebent in grozen sorgen,
 durh daz der vrost in chelte git ;
 des ligent si verborgen.
Refl. Vve tut ...

1. 冬はその力を示す
 花々と野に。
 それらの大きな力は過ぎ去った。
 野は我々にそれをなげいている。
 霜と雪が花々と野を苦しめる。
 そのため緑のクローバは枯れてしまっている。
2. 鳥はこの季節には黙っている。
 彼らは大きな悲しみの中で暮している、
 霜が彼らに寒気もたらすので。
 そのため彼らは身を隠して横たわっている。
 霜と雪が花々と野を苦しめる。
 そのため緑のクローバは枯れてしまっている。

Carmima Burana には珍しく、あらゆる生物がその前で萎縮してしま
 う冬の巨大な力を歌っている。

182a.

Vns chumet ein liehte sumerzit :
 div heide in grüner varwe lit,
 gras, blumen, chle, löp uns si git ;
 die wahsent alle widerstrit.

Refl. Swer nah frovden weruen wil,
 der habe mü^ot vnde sinne vil !

明るい夏の日がやって来た。
 野は緑に色づき、
 我々に草、花々、クローバ、葉をもたらす。
 これらはあらそって大きくなる。
 喜びをつかもうとする者は、
 大いに心意気を持つがよい。

183a.

Ich sich den morgensterne brehen.
 nu, helt, la dich niht gerne sehen !
 uil liebe, dest min rat.
 swer tovgenlichen minnet, wie tugentlich daz stat,
 da frivnschaft hute hat !

明けの明星が現われるのが見えますわ。
 さあ、騎士殿、人に見られないようにして下さい。
 愛するお人よ、これが私の忠告です。
 密かな恋をすることは、何といいことでしょうか、
 恋が注意深くある時には。

Tagelied の Frauenstrophe である。

184

1. Virgo quedam nobilis,
 div gie ze holze vmbe rîs.
 do si die burde do gebant,

Refl. Heia, heia, wie si sanch!
cicha, cicha, wie si sanch!
 vincula,
 vincula,
 vincula rumpebat.

2. Venit quidam iuvenis
 pulcher et amabilis,
der zetrant ir den bris.

Refl. Heia, heia...

3. *Er uiench si bi der wizen hant,*
er furt si in daz uogelsanch.

Refl. Heia, heia...

4. Venit † swe ... Aquilo,
der warf si verre in einen loch,
er warf si verre in den walt.

Refl. Heia, heia...

1. あるあてなる乙女が
 しばを集めに森へ行った。
 彼女がそこでしばをたばねた時、
 ヘイア、ヘイア、何と彼女は歌ったことか。
 チチャア、チチャア、何と彼女は歌ったことか。
 束を、
 束を、
 束を彼女はほぐした。
2. 立派でやさしい
 若者がやって来た。
 彼は彼女の袖口をほどいた。
 ヘイア、ヘイア、何と彼女は歌ったことか。
 チチャア、チチャア、何と彼女は歌ったことか。
 束を、
 束を、

束を彼女はほぐした。

3. 彼は彼女の白い手をとって、
鳥の鳴くところへ連れていった。
ヘイア、ヘイア、何と彼女は歌ったことか。
チチャア、チチャア、何と彼女は歌ったことか。
束を、
束を、
束を彼女はほぐした。
4. きびしい北風がやって来た。
風は彼女をしげみへ運んだ。
風は彼女を森深く運んだ。
ヘイア、ヘイア、何と彼女は歌ったことか。
チチャア、チチャア、何と彼女は歌ったことか。
束を、
束を、
束を彼女はほぐした。

ラテン語とドイツ語の混合詩。まことに sinnlich であるが、中世的な気分がよくにじみでている。思をはたせなかった男性をユーモラスに描いている所謂 *Sherzlied* である。

185.

1. *Ich was ein chint so wolgetan,*
virgo dum florebam,
do brist mich die werlt al,
omnibus placebam.
Refl. Hoy et oe!
maledicantur tilie
iuxta viam posite!
2. *Ia wolde ih an die wisen gan,*
flores adunare,
do wolde mich ein ungetan
ibi deflorare.

Refl. Hoy et oe ...

3. *Er nam mich bi der wizen hant,*
sed non indecenter,
er wist mich div wise lanch
valde fraudulenter.

Refl. Hoy et oe ...

4. *Er graif mir an daz wize gewant*
valde indecenter,
er fūrte mih bi der hant
multum violenter.

Refl. Hoy et oe ...

5. *Er sprach: „vrowe, gewir baz!*
nemus est remotum.“
dirre wech, der habe haz!
planxi et hoc totum.

Refl. Hoy et oe ...

6. *„Iz stat ein linde wolgetan*
non procul a via,
da hab ich mine herphe lan,
tympanum cum lyra.“

“*Refl.* Hoy et oe ...

7. *Do er zū der linden chom,*
dixit: „sedeamus,“
—*div minne twanch sêre den man—*
„ludum faciamus!“

Refl. Hoy et oe ...

8. *Er graif mir an den wizen lip,*
non absque timore,
er sprah: „ich mache dich ein wip,
dulcis es cum ore!“

Refl. Hoy et oe ...

9. *Er warf mir uf daz hemdelin,*
corpore detecta,
er rante mir in daz purgelin

cuspidē erecta.

Refl. Hoy et oe...

10. *Er nam den chocher unde den bogen,*
bene venabatur!
der selbe hete mich betrogen.
 „ludus compleatur!“
Refl. Hoy et oe ...

1. わたしは美しい娘でした、
 乙女として花咲いていた頃。
 その頃世の人々は私をたたえました。
 すべての人に私は好かれました。
 ホイ、オエ、
 道端に立っている
 菩提樹はのろわれよ。
2. 私は花束を作るために、
 野へ出かけようとした。
 そこで不埒な者が
 私を犯そうとした。
 ホイ、オエ、
 道端に立っている
 菩提樹はのろわれよ。
3. 彼は私の白い手をとった。
 でもはしたくはなかった。
 彼は私をあぜ道ぞいにたいそう狡猾に
 引っ張って行った。
 ホイ、オエ、
 道端に立っている
 菩提樹はのろわれよ。
4. 彼は私の服を
 たいそう下品につかんだ。
 彼は私の手をとって激しく
 引っ張って行った。
 ホイ、オエ、

- 道端に立っている
菩提樹はのろわれよ。
5. 彼は言った、「娘よ、もっといい顔をしろよ。
森は遠いぞ」
この道は憎らしい。
私は心から悲しんだ。
ホイ、オエ
- 道端に立っている
菩提樹はのろわれよ。
6. 「立派な菩提樹が立っている
道から遠くないところに、
私はハーブを置いた、
タンバリンとハーブを」
ホイ、オエ
- 道端に立っている
菩提樹はのろわれよ。
7. 彼は菩提樹のところへやって来て、
言った。「腰をおろそう」
——ミンネは彼を激しく強いた——
「たわむれよう」
ホイ、オエ
- 道端に立っている
菩提樹はのろわれよ。
8. 彼は私の白い体をつかんだ、
心配がなくはなかった。
彼は言った、「お前を女にしてやろう。
お前はきれいな顔をしている」
ホイ、オエ
- 道端に立っている
菩提樹はのろわれよ。
9. 彼は私のシュミーズをほうり投げた。
私の体をむき出しにした。
彼は私の城の中へ入って来た、
まっすぐに槍をたてて。

ホイ、オエ

道端に立っている

菩提樹はのろわれよ。

10. 彼は矢筒と弓を手にとった。

狩はうまく出来た。

彼は私をあざむいていた。

「たわむれは終わった」

ホイ、オエ

道端に立っている

菩提樹はのろわれよ。

これもラテン語とドイツ語の混合詩である。いかにも Vagant の作らしく erotisch な表現も見られるまことに sinnlich な Tanzlied である。

203a.

Vns seit uon Lutringen Helfrich,

wie zwene rechen lobelich

ze sæmine bechomen :

Erekke unde ovch her Dieterich ;

si waren beide uraislich,

da uon sie schaden namen.

als uinster was der tan, da sie an ander funden.

her Dietrich rait mit mannes chraft den walt also unchunden.

Ereke der chom dar gegān ;

er lie da heime rosse uil ; daz was niht wolgetan.

フォン・ローtringen・ヘルフリッヒはわしらに語る、

2人の誉れ高き勇士が

遭遇した事を。

エレッケとデートリッヒ殿が。

2人とも恐るべき者であった。

そのため彼らは損害を蒙った。

森はたいそう暗かった、2人はそこで遭遇した。

ディートリッヒ殿は大力で見知らぬ森へ馬を駆って来た。

エレッケは徒歩^{かち}にてそこへやって来た。

彼は家に多くの馬を置いてきた。それはよくなかった。

ディートリッヒ・フォン・ベルン伝説にまつわる十三世紀の英雄叙事詩
エッケンリート (Eckenlied) の一節である。

211a.

Nu lebe ich mir alrest werde,
sit min sundeg ovge sihet
daz schone lant unde ovch div erde,
der man uil der eren gihet.
nu ist geschehen, des ih da bat,
ich pin chomen an die stat,
da got mennischlichen trat.

私は今まずもって価値あるべく生きている、
なぜなら私の罪深い目が、
美しい国と地を眺めているがため。
この地に誉れの多くが認められる。
今や私の願った事が起った。
神が人の姿をとって歩まれた所へ
私はやって来た。

Walther von der Vogelweide の作で Palästinalied と呼ばれる
Kreuzzugslied の一節である。1228年の Friedrich 2 世の十字軍遠征
が詩作の動因であるといわれているが、Walther がこれに実際参加した
のか、あるいは全くの虚構であるかはっきりしていない。

218.

1. Audientes audiant :
diu schande uert al uber daz lant
querens viles et tenaces.
si hat sich uermezzen des,
quod velit assumere
di bosen herren, swie ez erge,
ad perdendum in Dothaim.

nu hin, nu hin, nu hin, nu hin.

2. O liberales clerici,
nu merchant rehte, wi deme si:
 date, vobis dabitur,
ir sult lan offen iwer tur
 vagis et egentibus,
so gewinnet ir daz himel hus
 et in perenni gaudio
alsus, also, alsus, also.
3. Sicut cribratur triticum,
also wil ih die herren tun:
 liberales dum cribro,
die bosen risent in daz stro;
 viles sunt zizania,
daz si der tieuel alle erslahoe
 et ut in evum pereant.
avoy, avoy, alez avanz!
4. Rusticales clerici
 semper sunt famelici.
die geheizent vnde lobent uil
vnde loffen hin zer schanden zil.
 quisque colit et amat,
daz in sin art geleret hat;
 natura vim non patitur.
hin vur, hin vur, hiu vur, hin vur!

1. 聞ける者は、聞くがよい。
 恥は國中をかけ巡る、
 欲張り者とけちん坊をさがして。
 ドートハイムで悪い奴らを破滅させるために、
 奴らを恥さらしにしようと、
 恥は思い上がった。
 さあ行け、さあ行け、さあ行け、さあ行け。

2. 自由な坊主どもよ、
よく注意して聞きなさい、どうであるかを。
与えよ、さすれば与えられよう。
戸口をお開きなさい、
遍歴の者たちと、貧しい者たちに。
そうすれば天国の住まいを得よう、
永遠の喜びの中で。
さあ、さあ、さあ、さあ。
3. 麦がふるいわけられるように、
こうしてわたしは紳士連とつき合っている。
気前のよい者がとうみに入れば、
悪い奴は麦わらに入る。
欲張り者は雑草だ。
悪魔が奴らみんなを殺してくれればなあ、
奴らが永遠に滅びればなあ。
さあ、さあ、それ行け。
4. 百姓坊主は
いつも空腹。
彼らは説教をし、大いに歌い、
恥になるまでつっぱしる。
人それぞれ自分にあった者を
あがめ愛する。
自然はそれをほったらかし。
さあ行け、さあ行け、さあ行け、さあ行け。

最も Vaganten 的な陽気な歌。

2*.

1. Ich lob die liben frowen min
vor allen gvten wiben,
mit dienst wil ich ir stete sin
vnd immer stete beliben.
si ist als ein spigel glas
si ist gantzer tvgende ein adamas

vnd schoner zvhte ist si so vol,
von der ich chvumber dol.

2. Ir roter rosenvarwer mvnt,
der tvt mich senen diche,
ir ovgen brehent ze aller stvnt
sam stern dvrch wolchen blicche.
mins herzen leben ir hant
gebvnden hat an elliv bant.
min ovge sach nie schoner wip.
ein engel ist ir lip.

3. Min leben stat in ir gewalt,
daz sol si wol bedenchen,
lazze mich mit frovden werden alt,
ich wil ir nimmer wenchen.
wil si, ich lebe wol,
daz diene ich immer swie ich sol.
gebivtet si, ich lige tot.
svs leide ich wernde not.

1. 私は私の愛する貴婦人を
あらゆる立派な婦人にましてたたえる。
私はあの人に永遠につくしたい、
あの人から永遠に心がわろうとは思わない。
あの方は鏡のよう、
全き美德の宝石だ、
みやびやかさで一杯だ。
私はあの人に胸の痛みを覚える。
2. あの人赤いばら色の口唇は
私にしばしば恋のうづきをもたらす。
あ人の目はいつも、
さながら薄い雲を通す星のように輝いている。
私の心の生命はあらゆるきずかなしに、

あの人の手にむすびついた。

私はこれほど美しい人を見たことがない。

あの人は天使だ。

3. 私の生命はあの人の思うがまま。

それをあの人はよく考えねばならぬ。

喜びもて私を老いさせてくれるなら、

決してあの人から心に移すことはない。

私が元気であることを彼女が望めば、

いかであろうとそうしよう。

あの人が命ぜれば、私は死のう。

こうして私は長い苦しみを耐える。

ここからは Fragmenta Burana である。これは Liebesklage を歌っている。

7*.

¹In aneenge was ein wort, daz wort was mit got, got was daz wort. ²vnd was in aneenge mit got, ^{3 4}von im sint alliv dinch gemachet an in ist gemacht nicht, swaz mit im ist gemacht, daz ist daz ewige leben, daz ewige leben ist ein liecht den livten, ⁵daz liecht daz livchtet in der vinsten, die vinsten mach sein nicht begreifen. ⁶Ein mennisch wart gesant von gote des name was Johannes. ⁷der chom zu ^eeiner gezeichnysse daz er gezeich were des liechtes. ⁸er was nicht daz liecht niwer daz er gezeich were des liechtes. ⁹daz ware liecht ist daz, daz ein igesleichen mennisch erlivchtet der in disiv welt bechumt, ¹⁰er cham in div welt, div welt erchant sein nicht, ¹¹er chom in sein aigen lant die seinen enpfiegen sein nicht ^{12,13}aver die in da enpfiegen den gab er den gewalt, daz si gotes chint ^ewrden, vnd die an seinen namen gelavpten die warn nicht geworn von wollvste des plutes noch von wollvste des vlaisches wan svnder von gote, ¹⁴daz wort ist ze vlaische worden, vnd wont in vns wir

haben sein ere gesehen als eines ainworn svnes wie den sein
 vater eret voller genaden vnd voller warheit. § durch disiv
 rede des hailgen ewangelii vergebe vns vnser herre alle vnser
 Missetat. amen.

ヨハネ福音書 1, 1-14 までの翻訳である。訳は略す。ただし最後の行は、「この聖なる福音により我らの主が我らの過ちを許したまわん事を。アーメン」の意。中世においてこのヨハネ福音書 1, 1-14 は悪魔や災害よけのために用いられた。

15*.

Et populus universus iam certificatus de Domino, cantor sic imponit:

Christ, der ist erstanden K 134
 <von der marter alle
 des sull wir alle fro sein,
 Christ sol unser trost sein.
 Kyrieleyson.>

そして会衆は今や主であることを確信し、歌い手はかく歌えり。

キリストは甦れり
 あらゆる受難から、
 われらすべてはそれを喜ぼう、
 キリストはわれらの慰めなり。
 キリエエリソン。

138 行の復活劇の最後の一節。ドイツ語の部分はこちらだけである。他はすべてラテン語。

16*.

Maria Magdalena:

Chramer, gip die varwe mier, 35
div min wengel roete,
da mit ich die iungen man

an ir danch der minnenliebe noete.

Item:

*Seht mich an, iungen man,
lat mich ev gevallen.*

40

Item:

*Minnet, tugentliche man,
minnekliche vrawen.
minne tuot ev hoech gemut*

vnde lat evch in hoechen eren schauven.

Refl. *Seht mich an, iunge man,*

45

<lat mich eu gevallen.>

Item:

*Wol dir werlt, daz du bist
also vreudenreiche.*

ich wil dir sin vndertan

durch dein liebe immer sicherlichen. 50

<Refl. Seht mich an, <iungen man,

lat mich ev gevallen.>

マリア・マグダレーナ：

小間物屋さん，私に色紅を下さいな，
私の頬を赤くそめるのを，
それで若い殿方に
恋をさせるために。

同じく：

若い殿方，私をごらん，
私を好きになってよ。

同じく：

立派なお方，
愛らしい御婦人方に恋をなさいな。
恋はあなたがたを元気にしてくれます。
高い誉れを見せてくれます。

若い殿方，私をごらん，
私を好きになってよ。

同じく：

あなた，世の方々に幸いあれ，あなたが
こんなに喜びに満ちあふれているとは。
私はあなたの愛によってずっとたしかに
あなたのしもべになりたい。
若い殿方，私をごらん，
私を好きになってよ。

16*.

*Tunc accedat amator, quem Maria salutet, et cum parum
loquuntur, cantet Maria ad puellas:*

Wol dan, minneklichev chint, 70
schawe^r wier chrame.
chauf^r wier di varwe da,
di vns machen schoene vnde wolgetane.
er muez sein sorgen vri,^e
der da minnet mier den leip. 75

Iterum cantet:

Chramer, gip di varwe mir,
<div min wengel roete,
da mit ich die iungen man
an ir danch der minnenliebe noete.
Refl, Seht mich an, iungen man, 80
lat mich eu gefallen.>

Mercator respondet:

Ich gib ev varwe, deu ist guot,^e
dar zuoe lobelich,
dev eu machet reht schoene
vnt dar zuoe uil reht wunecliche. 85
nempt si hin, hab ir si,
ir ist niht geleiche.

今や求愛者近づき、マリアこれに挨拶し、
彼ら少しばかり話をしてから、マリア乙女たちに歌う：

さあ、愛らしい乙女たちよ。
小間物屋を見ましょうよ。
そこの色紅を買いましょうよ。
わたしたちを美しくきれいにしてくれるわ。
私を愛してくれる人は、
悲しみなんかなくなってしまうわ。

さらに歌う：

小間物屋さん、私に色紅を下さいな、
私の頬を紅くそめるのを、
それで若い殿方に
恋をさせるために。

小間物屋答える：

あなたがたに色紅をお分けしましょう、
きれいでおまけに上等なのを。
それはあなたがたを美しく、
陽気にしてくれましょう。
それをお取りなさい。それを手にしなさい。
それに比べられるものはありません。

16*.

Accepto ungento vadat ad dominicam personam cantando flendo:

Ibo nunc ad medicum	turpiter egrota	
medicinam postulans ;	lacrimarum vota	
huic restat ut offeram	et cordis plangores,	
qui cunctos, ut audio,	sanat peccatores.	135

Item:

*Iesus, troest der sele min,
la mich dir enpfolhen sin,
vnde loese mich uon der missetat,
da mich dev werlt zuoe hat braht*

Item:

Ich chume niht uon den f^ouezzen dein, 140
du erloesest mich uon den sunden mein
vnde uon der gr^eozzen missetat,
da mich deu werlt zu^eo hat braht.

マリア・マグダレーナ香油を受け取り、主を演ずる者に近づき、泣きながら歌う：

今からお医者様へ行きますわ、病が癒えるよう。
 薬を求めますわ。あの方に涙の願いと
 心の苦しみを訴えましょう。
 あの方はあらゆる罪人を癒してくれると聞いているわ。

同じく：

イエススよ、私の魂を慰めて下さい。
 御身に私を委ねさせて下さい。
 世の中が私を引き込んだ
 過から私を救って下さい。

同じく：

私はあなたの膝下から離れません、
 あなたが私の罪から、
 世の中が私を引き込んだ
 過から私を救って下さるならば。

16*.

Tunc Maria surgat et vadat lamentando cantans:

A^vwe, a^vwe, daz ich ie wart geborn.
han ich verdient gotes zorn,
der mⁱer hat geben sele vnde leip. 160
a^vwe, ich uil vnselaeich wⁱp.
O^vwe, a^vwe, daz ich ie wart geborn,
swenne mich erwechet gotes zorn.
wol uf, ir g^oueten man vnde wip,
got wil rihten sele vnde leip. 165

今やマリア・マグダレーナ立ち上がり、涙を流して歌いながら離れる：

私が生れて来たのは悲しいこと。
 私に魂と肉体をさずけてくれた
 神の怒りを私は受けた。
 悲しいかな、私は哀れな女。
 私が生れて来たのは悲しいこと、
 神の怒りが私を目覚せるたびに。
 さあ、善男、善女よ、
 神は魂と肉体を裁かんとしている。

16*.

*Tunc veniat mater Domini lamentando cum Iohanne
 evangelista, et ipsa accedens crucem respicit crucifixum:*

*Awe, awe, mich hiut vnde immer we!
 awe, wie sihe ich nu an
 daz liebiste chint, daz ie gewan 250
 ze dirre werlde ie dehain wip.
 awe, mines shoene chindes lip!*

Item:

*Den sihe ich iemerlichen an.
 lat iuch erbarmen, wip vnde man.
 lat iwer ovgen sehen dar 255
 vnde nemt der marter rehte war.*

Item:

*Wart marter ie so iemerlich
 vnde also rehte angestlich?
 nu merchet marter, not vnde tot
 vnde al den lip von blute rot. 260*

Item:

*Lat leben mir daz chindel min
 vnde toetet mich, die muter sin,
 Mariam, mich uil armez wip.
 zwiv sol mir leben vnde lip?*

それから主の母は福音者ヨハネと共に泣きながら来たり、十字架の下に歩みより、十字架に架けられし者を見上げる：

今日もそして永遠に私は哀なり。

かつて女がこの世で

得た最も愛しい子を

今見るのは痛ましい。

おお、わが美しい子の肉体。

同じく：

悲しい気持で私はそれを見る。

婦人たちよ、殿方たちよ、憐みの心を持ちなさい。

あなたがたの目をそこへ向けなさい。

受難を正しく見なさい。

同じく：

これほど悲しく

これほど苦しい苦難があったでしょうか。

さあ苦難に、苦しみと死、

そして赤い血の肉体に目を向けなさい。

同じく：

私の子を生かせて下さい。

私を、この子の母、

マリアを、哀なる女を殺して下さい。

何のために私に生と肉体があるのでしょうか。

284 行のキリストの受難劇のドイツ語の部分のみを示した。他はすべてラテン語。

17*,

Diu mukke müz sich sere mün,

wil si den ohsen uber lün.

Gienge ein hunt des tages tausent stunt
ze chirchen, er ist doch ein hunt.

Manich hunt wol gebaret,

der doch der leute varet.

Ez dunchet mich ein tumber sin,
swer waent den ouen obergin.

Swa ich waiz den wolues zant,
 da wil ich h^euten meiner hant, 10
 daz er mich niht verwnde,
 sein beizzen swirt uon grunde.
 Der lewe sol auch nimmer lagen,
 wellent in di hasen iagen.
 Div fliug ist, wirt der sumer heiz, 15
 der ch^unste uogel, den ich waiz.
 Der bremen hohgezit zergat,
 so der augest ende hat.
 Die cheuern uliegen unuerdaht,
 des uallet maniger in ein paht. 20
 Die fr^osche t^unt in selben schaden,
 wellent si den storchen zu h^use laden ;
 di wisen chunnen wol uerstan,
 waz ich tore gesprochen han.
 Der lewe f^urhtet des mannes niht, 25
 wan ob er in h^oret und niht siht.
 Der cheuer sich selb betriuget,
 swenn er ze hohe fliuget.
 Diu nahtegal diche m^ut,
 swenn ein esel oder ein ohse l^ut. 30
 Der hunt hat leder urezzen,
 so man dienstes wil uergezzen.
 Der hofwart vnd der wind
 selten g^ute friunde sind.
 Swer schalchait lernt in der iugent, 35
 der hat uil selten staete tugent.
 Man siht uil selten rich^ez h^us
 ane dieb und ane m^us.
 Von reht iz auf in selben gat,
 swer dem andern geit ualschen rat. 40

Der esel und di nahtigal
 singent ungelichen schal.
 Swa man den esel ch^eronet,
 da ist daz land geh^eonet.
 Minne, schatz, groz gewin
 vercherent g^outes mannes sin.
 Man minnet nu schatz mere
 danne got, lyb, sel vnd ere.
 So stæte friundin nieman hat,
 er fur^eih^ete doch ir missetat.
 Vremede scheidet herzelieb,
 stat machet manigen dieb.
 Swer lieb hat, der wirt selten urei
 vor sorgen, daz ez unstæte sei.
 Herzelieb hat manich man,
 der doch gar uerniugeret dran.

45

50

55

蚊はたいそう骨を折っているにちがいない、
 牛よりもぶんぶん言おうとすれば。
 犬は日に千度教会へ行っても、
 所詮犬である。
 いい犬もたくさんいるが、
 だが人間を危険におとし入れる。
 かまどよりももっと大きな口をあけようとする者は、
 私には愚か者のように思われる。
 狼の歯を知っているところでは、
 手を近づけまい、
 狼が私を傷つけないように。
 狼がかむのは骨まで痛い。
 ししは決して待ち伏せしてはいけない、
 うさぎがししを追いたてる時でも。
 夏が暑くなれば、ハエは
 私の知っている最も大胆な鳥である。
 八月が終ると、

ハエどもの宴は終る。
甲虫はむこうみずに飛ぶため、
多くは汚物に落ちる。
カエルたちは自分で損をする、
コウノトリを家へ招くと。
私が愚かに語ったことを、
賢者たちはよく理解する。
ししは人の誰をも恐れない、
ただしししが人の声を聞いても、見えない時に。
甲虫は高く飛びすぎると、
自分を欺く。
小夜啼鳥はしばしば苦しむ、
ろばと牛が鳴く時には。
「犬が皮を食べた」（と人は言う）
人が（軍）役からのがれようとする時に。
番犬と猟犬は
めったにしかよい友達ではない。
若い時に悪い事を学んだ者は、
めったに永続的な美德を持っていない。
泥棒がはいらず、ねずみのいない
金持の家はめったにない。
他人に誤った助言を与える者は
当然同じところに陥いる。
ろばと小夜啼鳥は
ちがった声を出す。
ろばに王冠をいだかせようとすれば、
その土地はさげすまれる。
愛、宝、大もうけは
立派な男の心を破壊する。
人は今や神、肉体、魂、名誉よりも
宝を愛する。
どんなに誠実な恋人を持っても
その人の過ちを恐れる。
別は心の喜びを分つ、

機会は多くの恋泥棒をつくる。
 恋人を持っている者は、彼女が不実である
 という悩から離れられない。
 おおかたの人は心の喜びを持つ、
 がしかしそれにたいして喜びを失ってしまう。

フライダルク (†1233?) の作である。2 ないし 4 行からなる 4 揚音の対
 句で出来ている Bescheidenheit (洞察, 智恵ほどの意) と呼ばれる Spruch
 集の一部。その多くは聖書, あるいは民間伝説からとられている。

23*.

Cantus Ioseph ab Arimathia:

Iesus von gotlicher art
 ein mensch an alle sunde,
 der an schuld gemartret wart,
 ob man den vurbaz vunde
 genaglet an dem chrivze stan,
 daz wer niht chuneges ere.
 darumb solt ir mich in lan
 bestaten, rihter, herre.

5

Pilatus:

Swer redelicher dinge gert,
 daz stet wol an der maze,
 daz er ir werde wol gewert.
 du bitest, daz ich laze
 dich bestaten Iesum Christ.
 daz main ich wol in g^oute.
 seit er dir so ze herzen ist,
 num in nach dinem m^oute.

10

15

アリマティアのヨゼフ歌う:

神性のイエズス
 あらゆる罪なき人間,

その人は罪なくして難儀を受けられた。
さらに十字架に釘づけにされているならば、
それは王者にふさわしい名誉ではないでしょう。
裁判官様、
それ故あなたは私をしてあの人を埋葬させて下さい。

ピラト：

正当な事を望むならば、
その事を聞いてもらおうとするのは、
正しい事だ。
お前は願っている、わしがお前をして
イエズス・キリストを埋葬させることを。
わしはそれをよい事だと思っているので、
お前の心に従って彼を引き取れ。

イエスの遺体を引き取り、埋葬したアリマティアのヨゼフとローマ総督
ピラトとの対話。

ま と め

これで Carmina Burana (以下 CB と略す) に収められた中高ドイツ語詩の総てを紹介概観した。これらドイツ語詩のほとんどが恋歌 (Liebeslied) に集中している。CB 全体から言っても恋歌が優に全詩の3分の2以上を占めていることから見て当然の事であるが、しかしただそれだけの原因ではなく、ドイツ中世文学のジャンルに関する問題と言えよう。CB のドイツ語詩の恋歌には本来の意の個性的な色彩の濃いミンネザングから、Vaganten 達が宴の席上、憂さ晴しに歌ったとも思われる非常に sinnlich な歌までも含まれる。今恋歌は次の3種類に大きく分類され得よう①恋の苦しみ (Liebesklage) を歌った恋歌②自然を導入した恋歌③その他自然を導入しない恋歌。そのほか恋歌以外には宗教劇の一部やフライダנקの Spruch の一部等を除いてドイツ語詩は見あたらない、教訓詩や風刺詩は中世ドイツ文学の諸作品にも見られるが、酒と賭博の歌は見られないことから言っても、酒と賭博の歌は中世ラテン文学、就中 Vagantenlied 特有のものといえよう。

恋歌の中で最も華やかなのは春の野を主題とした *Tanzlied* である。それは中世人の生活を如実に描いている。特にことさら貧しい *Vaganten* 達の生活を描いている。彼らはしばしば空腹や寒さに苦しめられなければならなかった。厚い窓も、暖かいストーブも、十分な食料や衣服もなしに厳しい冬を過した彼らにとって春の到来は一段の喜びをもって迎えられた。これら一連の詩はかかる素材の下に、愛の喜びが折りなされて素朴で中世的な明るさを一段と増している。

数々のドイツ語詩は CB 以外の他の写本において、有名なドイツ語詩人即ち *Walther von der Vogelweide*, *Dietmer von Eist*, *Reinmar*, *Heinrich von Morungen*, *Neidhard von Reuenthal* 等の名で載せられている。CB の作者が彼らの作を模倣したのではなく、実際彼らの作に帰してよいと思う。これに反してラテン語詩は 2 篇を除いて CB のみに伝えられている。実際誰が詩作してどのような経路を経て、写本に組み入れられたかを追跡調査することは、詩の価値を正当に評価する上でも、極めて重要な作業であるが、前にも述べたように CB のような流動的な作品においては不可能と言えよう。

最後にラテン語詩とドイツ語詩との関係は如何であろうか。最も目につくのはラテン語詩の 152 とドイツ語詩の 152a である、この二つは互いに翻訳可能なほど、すこぶる一致している。次に 152 の一節と 152a を示そう。

152.

*Estas non apparuit preteritis temporibus,
que sic clara fuerit ; ornantur prata floribus.*

*Refl. Aves nunc in silva canunt
et canendo dulce garriunt.*

こんなにすばらしい夏は今までなかった。

野は花々で飾られている。

今や鳥は森で歌い、

甘美にさえずり歌う。

152a.

Ich gesach den sumer nie, daz er so schone duhte mich :
mit menigen blumen wolgetan div heide hat gezieret sih.
sanges ist der walt so vol ;
div zit div tūt den chleinen volgelen wol.

こんなに美しいと思える夏を私は見たことはなかった。
野はたくさんのすばらしい花々で飾られている。
森は歌声で一杯だ。
夏は小鳥たちを楽しませる季節だ。

この場合恐らくドイツ語詩がラテン語詩の模倣であると推定される。もちろん総てがこうでないことは言うまでもない。さらにすべてのラテン語詩とドイツ語詩との間の関係を内容的並びに韻律的に検討しなければならないが、それについては別の機会に稿を改めねばならない。(終)